

お知らせ

◆周作クラブ新年会

日時 2020年1月25日(土)

午後12時半～

会場 広尾・ラ・メンサジヤスミン
会費 6,000円

※会員の方には、年末あるいは年始に往復はがきでご案内を差し上げます。

◆遠藤作品の上演

メナム河の日本人

公演日 2020年2月15日

3月7日

会場 静岡芸術劇場(グランシップ

内) 静岡市駿河区東静岡2の

3の1

※11月中旬、チケット発売開始

▽原作は、日本とタイの架け橋となつた山田長政を主人公にした遠藤周作の戯曲。山田長政は駿河の国(現在の静岡)出身で、江戸時代の初めに

アユタヤ王朝(タイ)へ渡り、日本

人傭兵部隊の隊長や貿易商として活躍した。異国の地で「理想の国」を

作ろうと奔走した長政の生涯を通じて、日本人の特質を描き出す。演出

は今井朋彦(文学座)。

問合せ先 SPACチケットセンター

☎054-202-3399

(10時～18時)

◆加賀乙彦会長の新刊

『死刑囚の有限と無期囚の無限』

——精神科医・作家の死刑廃止論——

コールサック社・刊

10月10日発行

定価 1,800円+税

本書は、加賀乙彦氏の評論集の中から死刑囚と無期囚について、どのように考えているかを中心にしている批評文を集め(略)精神科医・長編小説家・クリスチャンとしての存在が生涯をかけて三位一体となって熟成されてくる構成になっている(本書のオビから)

❖「協力金」のお願い

総会の報告記事で、周作クラブの財政状態はご承知になられたことと存じます。より良い周作クラブを作つてゆくに、会員の皆様に会費とは別に「協力金」をお願いしたいと考えました。次号会報に振替用紙を同封しますので、ご意思のある方はよろしく願います。

一口一〇〇〇円、何口でも可。

❖「会報」の原稿募集

会員の皆さんの原稿を募集します。900字(半ページ分)あるいは1800字(1ページ分)。遠藤周作の人と作品について、あるいは遠藤文学との関わりなど何でも結構です。

なお、原稿は必ず下記「周作クラブ」宛てに郵送してください。掲載の際にはご連絡差し上げます。

❖「周作クラブ」会員募集

「周作クラブ」では会員を募集しています。遠藤文学ファンはもちろん、これから読んでみようという方々も大歓迎です。

年会費は3,000円。入会金はありません。年4回発行の「会報」が送られるほか、会が主催する「文学セミナー」や遠藤作品の足跡を訪ねる「遠藤文学・原点の旅」へ参加できます。新年会、各種懇親会へのご案内もお送りします。下記「周作クラブ」まで、ハガキかEメールでお申込みください。折り返しご案内の資料と会費の振込用紙をお送りします。

周作クラブ携帯電話の廃止と新メールアドレスについて

会報の奥付とクラブの封筒および振替用紙に番号が記載されております。周作クラブ所有の携帯電話を、利用者も少なく、経費の節約も考えまして、この度、廃止いたしました。今後の周作クラブへの連絡窓口は、従来からのFAXに加え、新たに取得した左記ヤフーメールとなります。

Shusaku_club@yahoo.co.jp

どうぞよろしく願います。

❖編集後記❖

▼いつの間にか、すっかり秋が深まってきました。北の国では、はや初雪も降ったようです。気がつけば暮を迎え、年が明けて正月ということになります。まさに光陰矢の如しで歳月の経過の早さには驚くばかりです。

▼遠藤先生が平成8年(1996年)にお亡くなりになられてから、はや23年も経ちました。僕も、先生の享年73をいつの間にか越えて、来年1月には77歳の喜寿を迎えます。あと何年生きられるのだろうか、などという考えが生まう今日このごろです。

▼本会報も、今号で77号を迎え、周作クラブも来年は創立20周年となります。ですが、今でも、遠藤先生と楽しく過ごさせて頂いた日々を、しよつちゅう思い出します。本誌掲載のエッセイのネタは、尽きません。

▼本会の会員数が、やや減り気味です。どうぞ会員の皆さんも誘ってください。来年5月の「原点の旅」は、静岡からのバスツアーで1泊2日、熱海で解散です。こんな機会でないとなかなか行かないところです。ぜひふるってご参加ください。ともあれ、皆様どうぞよいお年を……。

(颯)

「周作クラブ」第77号

2019年11月発行

■発行人 加賀 乙彦

■編集人 高橋千劍破

■副編集人 亀岡 園子

■編集部 一田佳希、大原雄、近藤恭弘、高木香織、南紀洋子

■発行所 東京都世田谷区上馬4-29-17

加藤宗哉事務所内「周作クラブ」

Eメール Shusaku_club@yahoo.co.jp

FAX 03-3421-11521

●次回の会報発行は2月の予定です。